

夏はフェスタとエスクに注目!

～全農開発の飼料の最新トピック～



今回は、おかげ様で多くの皆さまにご利用をいただいている、全農開発の夏場対策飼料「フェスタ」の活用データとあわせて卵殻強化飼料「エスク」との夏場の使い分けについてご提案する。まだご利用でない方は、この機会にぜひお試しください。

●フェスタの昨夏の活用事例

全農は昨年6月、夏場対策飼料「フェスタ」を販売開始した。今回は西日本におけるフェスタの野外試験データについてご紹介したい。この農場では昨年7月1日の成鶏導入と同時にフェスタを通常の配合飼料に0.1%配合した。また、同時にフェスタを給与しない鶏群も用意した。

図1は飼料摂取量である。網掛けの部分は舎内気温が昼は30℃、夜は25℃前後となった暑い期間である。フェスタの給与により飼料摂取量がやや増え、暑い期間が終わってからもしばらくその差が維持される傾向があった。

図2は産卵率で、フェスタの給与により飼料摂取量の傾向と同じくやや改善された。またフェスタの給与区は無添加区より卵殻強度が0.2kgほど高く、GPヒビ卵率も1%ほど低い傾向であった。その一方、卵重や生存率は

今回は特に差がなかった。

暑熱ストレスを緩和して飼料摂取量を増やし、夏場の産卵成績を総合的に改善するフェスタの力が確認できた事例といえる。フェスタは暑い時期に集中して給与をしたい。給与開始時期をしっかりと見極めることで、添加コストを最小限に抑えることができるだろう。

フェスタは採卵鶏、ブロイラーのいずれにもお勧めできる。気象庁の予報によると、この夏は西日本地域に進むほど平年より気温が高いと予想されている。急な暑さへの対処に全農の夏場対策飼料「フェスタ」をぜひお役立ていただきたい。

●卵殻強化飼料「エスク」との使い分け

「エスク」は全農の卵殻強化飼料として、発売以来、全国でご利用をいただくヒット商品となっている。

体内でのカルシウム運搬を助けるという明確な仕組みや、卵殻が弱くなってから使っても鶏が食べ始めてから約2週間で効果が得られる点に幅広いご支持をいただき、大規模な生産者の方にもご採用をいただいている。

夏場は卵殻質が悪化するため、エスクを使用する生産者の方も多し。フェスタとエスクの使い分けについてはしばしばご質問をいただく。卵殻強化のためのエスクと夏場対策のためのフェスタは両方を併用することができるが、添加コストを抑えるなら、特に卵殻を強化したい場合はエスク、飼料摂取量や卵重も含めた夏場の成績低下を緩和し、秋口以降の速やかな回復を目指すにはフェスタ、といった使い分けをすると良いだろう。

全農は、効果があるだけでなく経済的なメリットが得られる製品を作るため、その使い方まで含めた研究開発を行っている。この夏はその成果である「フェスタ」と「エスク」をぜひ一度お試しください。

子豚用自動ほ乳器を活用した飼養管理

～「ミルキーウィーンフィーダー」について～



分娩舎で使用する子豚用自動ほ乳器(ミルキーウィーンフィーダー)を活用した子豚の飼育管理について紹介する。

●重要性が高まる子豚の飼養管理

日本の1母豚あたりの年間離乳頭数は、養豚先進国であるEUと比較すると少ない(図1)。これは日本の種豚の繁殖能力が海外の種豚の成績と比較して劣ることが1つの原因と考えられる。しかし、近年系統のハイコープ種豚や、海外のハイブリッド種豚などの繁殖能力が高い種豚も、国内で飼養され始めてきた。繁殖能力が高い種豚は、自らの乳頭数よりも多く子豚を産出することがあるため、分娩舎での子豚の飼養管理が、より重要となってきている。

●子豚用自動ほ乳器について

子豚用自動ほ乳器(ミルキーウィーンフィーダー)は、ホッパーに入っている人工乳をお湯と、同時に下皿へ補給し、子豚が食べやすいリキッド飼料を給与する。また給与時間の調整が可能であり、下皿に一定量の飼料が

たまると給与を停止し、子豚が飼料を摂取すると再度給与を開始するため、無駄餌を抑えることができる。24時間、自動的に給餌することが可能なため、子豚は好きな時に好きなだけ飼料を摂取することができる。そのほかにも特徴的な機能として、給餌に合わせて音で子豚に給与開始を知らせる機能もある。

全農飼料畜産中央研究所において、初乳を飲ませた2日齢の子豚をミルキーウィーンフィーダーに集め「HP子豚えつけ」を給与した個体(液餌区)について発育を

調査した。その結果、離乳ショックを3週齢前(初乳摂取後)に経験しているため、子豚舎移動時のショックが少なく、肥育舎移動時(9週齢)には母豚に3週間哺育された子豚(対照区)と発育が同等になることが確認された(図2)。このように種豚の離乳頭数以上に生まれた子豚を早期に離乳させ自動ほ乳器にて飼育することで、母豚への負担や、ひね豚の発生を減らすことが可能になり、生産成績の向上が期待できる。

子豚用自動ほ乳器に関する
問い合わせは
全農畜産サービス(株)マテリアル事業部まで
TEL.03-5245-4871



ミルキーウィーンフィーダー(左)と給餌風景(右)

図1.フェスタの給与と飼料摂取量

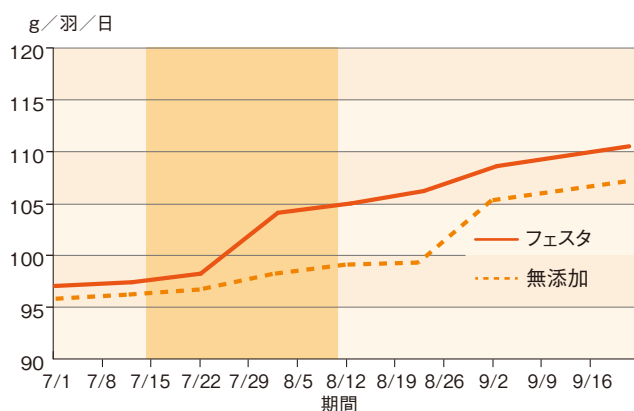


図2.フェスタの給与と産卵率

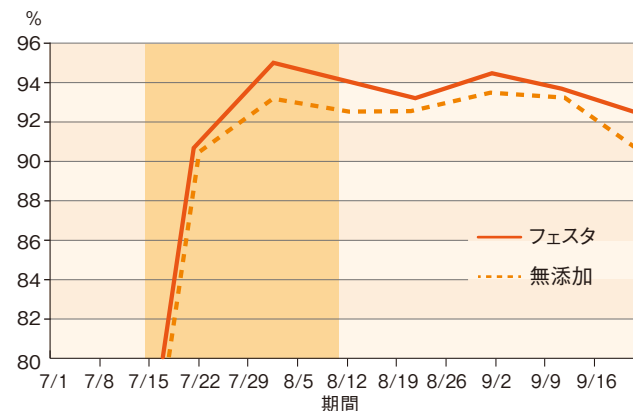
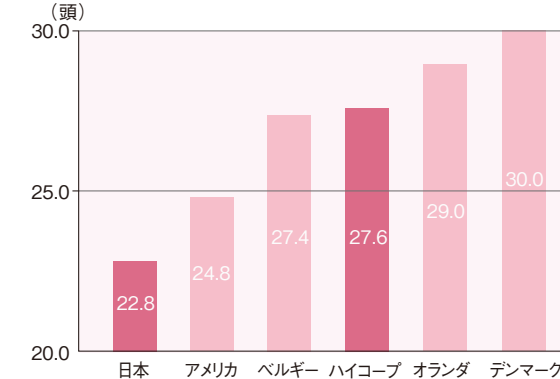
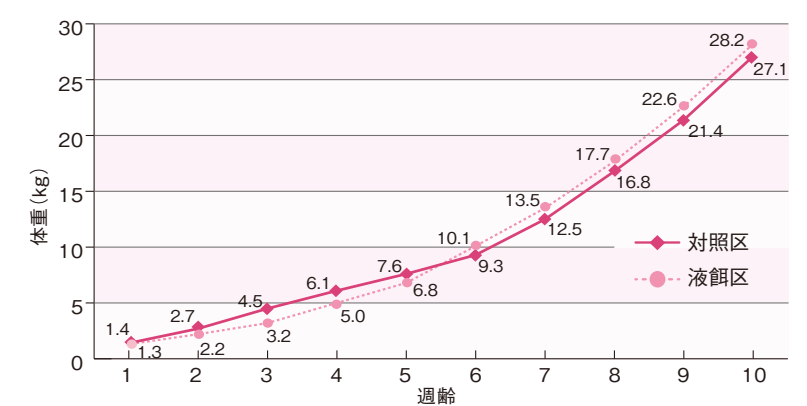


図1.各国の平均年間離乳頭数(頭)



出典:日本 農林水産省「家畜改良目標」
海外 Pig Cost of Production in Selected Countries.
BPEX October 2013
ハイコープ 全農飼料畜産中央研究所 研究データより試算

図2.全農飼料畜産中央研究所での発育試験結果



●「フェスタ」と「エスク」についてのお問い合わせ・ご注文は、お近くのJA、経済連、くみあい飼料、科学飼料研究所の営業担当者まで。